広告　企画協力 読売新聞社ビジネス局

おうちで工場見学！
クルマのリサイクルとSDGs

Vol.2 整備編





クルマは人や荷物を運ぶだけでなく、災害時に人を助けるなど、私たちのくらしや社会を支える大切な存在です。そして役目を終えた後も、ほぼ全てがリサイクルされ、新しい資源として生まれ変わります。このシリーズ（全7回）では、自動車リサイクルに関わるさまざまな会社を訪ね、リサイクルのしくみや、それを支える人々の仕事を紹介します。

第2回で訪ねるのは、バスやトラック、乗用車を点検・整備する神姫商工株式会社の神戸工場です。安全を守る点検・整備や、部品・資源を活かす取り組みを見てみましょう。

お訪ねした会社　**神姫商工株式会社（神戸工場）**
兵庫県神戸市中央区港島南町　https://www.shinkishoko.jp/

兵庫県内に整備工場を展開し、バスやトラックなどの大型車から乗用車まで、さまざまなクルマの点検・整備・修理を行う会社です。神戸工場では神姫バスを中心に、多くの人の移動や地域のくらしを支えるクルマを整備しています。



企業の取り組み　神戸を走る長〜い車体！「連節バス」も点検・整備

神戸のまちを走る「Port Loop」は、車体の中央が蛇腹のような部分でつながった「連節バス」です。この工場では、一般的なバスよりも長く、特別なつくりをしたこのPort Loopの連節バスも点検・整備し、安全な運行を支えています。

車内の連節部分

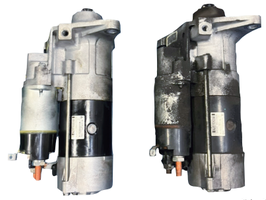


3 使い終わったものは分別 大切な資源を次の工程へ

バスやトラックを整備すると、使い終わった金属部品やエンジンオイル、バッテリー、タイヤなどがたくさん出ます。この工場では、「オイルはオイル、バッテリーはバッテリー」というように、種類ごとに細かく分けて一時的に保管します。分別したものは、それぞれ専門の業者に引き渡します。整備工場で正しく分けることで、次の業者が処理しやすくなり、再利用できるものを資源として活かすことにもつながります。



2 まだ使える部品はリサイクル部品として活用



▲スターターモーターのリビルト品（左）現車についていたもの（右）

整備では、まだ使える部品をもう一度使うことがあります。こうした「リサイクル部品」には、「中古部品」と「リビルト部品」があります。中古部品は、ほかのクルマから取り外し、使える状態かを点検して、そのまま使う部品です。例えば、機能に問題のないドアミラーなどを、選択肢の一つとしてお客様に提案します。一方、リビルト部品は、使用済みの部品を分解し、消耗した部分だけを新品に交換して組み立て直したもの。クーラーの部品やエンジンなどがあります。どちらも新品より費用を抑えられて、資源・エネルギーの節約やゴミの削減につながります。

1 壊れる前に見つけて直す「予防整備」で安全に

この工場では、バスやトラックなどの大型車から乗用車まで、さまざまなクルマを点検・整備しています。バスは多くの人を乗せて長い距離を走るため、故障していなくても定期的な点検が欠かせません。点検では目に見える場所だけでなく、部品を外さなければ見えない場所まで細かく調べます。路線バスでは、エンジンやブレーキのほか、座席の握り手や床のボルトなど、乗客が使う部分も点検します。また、消耗した部品を早めに交換する「予防整備」で、大きな故障や事故を防ぎ、クルマを長く安全に使えるようにします。こうした点検と整備が、バスの安全な運行と人々の生活を支えています。



安全を守り、資源を活かす整備工場の工夫とは？







今回の内容を動画でもチェック！

より詳しい様子を動画で観てみよう！

公益財団法人自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC
詳しくはこちらから　クルマのリサイクル　検索
インスタグラムもチェック！
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



クルマのリサイクルについて勉強してみよう！

第10回 クルマのリサイクル作品コンクール

標語・ポスター大募集

締切 2027年1月31日（日）消印有効

詳しくはWEBをチェック！